

知床博物館ニュースレター No. 401

タンネウシ

2025年 5 月号

タンネウシはアイヌ語で「長い・木の・群生しているところ」。博物館付近の地名です

博物館講座

メノウを探し、磨いてみよう

真鯉海岸でメノウをさがし、博物館で研磨機を使い磨きます。メノウが形成された時の縞模様が見られます。磨いたメノウはペーパーウエイトとして使ってください。▶日時：6月1日(日) 9:00～12:00▶定員：15名(小学生以上、要申込)▶参加費：300円(小中学生・協会の会員無料)▶講師：合地信生学芸員▶持ち物：暖かく汚れても良い服装、長靴、飲み物、お菓子、タオル



磨いたメノウ

北方民族博物館移動展

カザフの工芸

～伝統の意匠 現代の手仕事～

中央アジアの草原地域で暮らすカザフ民族の手により作られた、壁掛けや敷物、織物などを展示する移動展を開催中です。知床博物館限定で、カザフにとって重要な家畜であり、斜里でも戦後の衣料不足解消のため盛んに飼育されたヒツジに注目するミニ展示もあります。さらに、関連イベント第2弾として、カザフの刺繍技術を身につけた研究者による講座とギャラリートークも開催します。※北方民族博物館企画展を再構成したものです。

○移動展

▶会期：～6月1日(日)▶場所：交流記念館ロビー

○講座&ギャラリートーク

▶日時：5月25日(日) 10:30～11:30▶講師：廣田千恵子(北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター／日本学術振興会特別研究員)▶料金：無料(要申込)

お知らせ

博物館リニューアル座談会の活動

知床博物館は令和10(2028)年12月に開館50周年を迎えます。その周年事業として施設や展示のリニューアルを予定しています。より使いやすく、魅力的な博物館へ改修できるよう、町民による「リニューアル座談会」を立ち上げ、月に1回程度の協議や他の博物館視察を重ねながら斜里町民にとっての「理想的な博物館」を模索・検討しています。



博物館視察のようす

収蔵資料展示～戦後80年企画～

それぞれの「資源回収」

戦争の中で資源が不足すると、国は人々から不用品を集めたり、金属などを半ば強制的に提供させたりしました。協力した子ども達や、大切なものを手放せなかった

大人など、それぞれが体験した「資源回収」に関する資料を展示します。▶期間：5月8日(木)～6月8日(日)▶場所：本館受付前



廃品回収感謝状

新入職員紹介

生物担当の学芸員として着任しました樋口眞人(ひぐちまさひと)と申します。3月まで山形の大学で植物と昆虫のつながりについて研究していました。初めての北海道なので分からないことだらけですが、これから色々と勉強していきたいと思います。町民のみなさんと博物館をつなぐ存在となれるように頑張ります！どうぞよろしくお願いします。



退職職員について

農業資料等収蔵施設の運営等に携わっていた阿部公男主任が退職いたしました。現職中は、協会会員の皆様と接する機会も多かったと思います。大変お世話になりました。

休館日

5月12日(月)、19日(月)、26日(月)